カトリック幟町教会報
平和の鐘
編集・発行　カトリック幟町教会（広報部）
広島市内チーム（幟町・東広島・三篠・翠町・向原・岩国）ヴィタリ神父、アルベルト神父、豊田尚臣神父、肥塚侔司神父、中村健三神父、福田誠二神父、大西勇史助祭〒730-0016
広島市中区幟町４番 42 号
TEL　(082)221-0621　FAX　(082)221-8486
http://www.nobori-cho-catholic.com
2016 年 6 月号　No.479

いつくしみ深く　御父のようにリストの

シスター小野島照子

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」

マタイ 11／28

毎月第４木曜日の夜６時半～８時半まで地下聖堂で祈りの集いを 20 年余り続けていますが、この集いは最初、並木通りのうどん屋で始まりました。広島・幟町教会に私が派遣されて直ぐに、墨絵でみ言葉を描くプロテスタントのＴ氏と当時カトリック幟町教会の信徒会長・Ｔ氏が中心に成って、「地球家族」と言う構想で、世界中の国境を取り除いて家族と成る道を求めて、まず祈りの集いを始めて欲しい、そして広く市民に呼びかける為に「うちのうどん屋を使ってください」との提供も受け、当時の地区長兼主任の斎藤神父様と相談し、翠町教会のＴさんのギター伴奏で、テゼの祈りの集いを始めました。当日のうどん屋は夜貸し切り。しかし数カ月後にうどん屋は倒産。祈りの場をマリアホールや、当時橋本町にあった援助会の聖堂に移し、次第に世界平和記念聖堂の地下聖堂で毎月祈る集いに定着しました。

20 世紀末に南アフリカに黒人初の大統領が誕生し喜びに湧く反面、ルワンダでは「部族争い」と言われた大虐殺。21 世紀に入り、「米同時多発テロ」、米イラク空爆等、世界は黒雲に覆われ、地球家族への叫びも強まり、国内ではオウム真理教のサリン事件で、宗教への偏見も強まり、教会に来る人々は苦しい時代に入り、だからこそ藁をも掴む思いでいる悩める人々に、毎月の祈りの集いのポスターで、地下聖堂の沈黙に浸る祈りに招きました。沈黙の中におられるキリストから不思議な心の平和を頂き、元気に喜んで帰られる姿に接して皆で神に感謝！「2 人または 3 人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる。」（マタイ 18／20）とのキ言葉に力付けられ集いを続けています。

昨春からエリザベト音大のキャンパスミニストリーと共催にし、学生達の歌や楽器も加わり、神への賛美も美しさを増しています。「主よ、しもべは聞きます。おはなしください」（サムエル上 3／10）と祈る沈黙の時間をご一緒しませんか？

2016 年教会共同体の新体制が始動

昨年の信徒総会で幟町教会共同体の新しい規約を整備することを決定し、1 年間、必要規程を整備しました。

その結果、宣教司牧評議会と財務委員会を正式に立ち上げ、新しい体制がスタート、5 月 25 日に信徒大会を開催しました。

共同体規約の主な変更点は次のとおりです。

【組織名の変更】

●信徒総会 → 信徒大会

●運営委員会 → 活動連絡調整会議

●幹事会 → 宣教司牧評議会

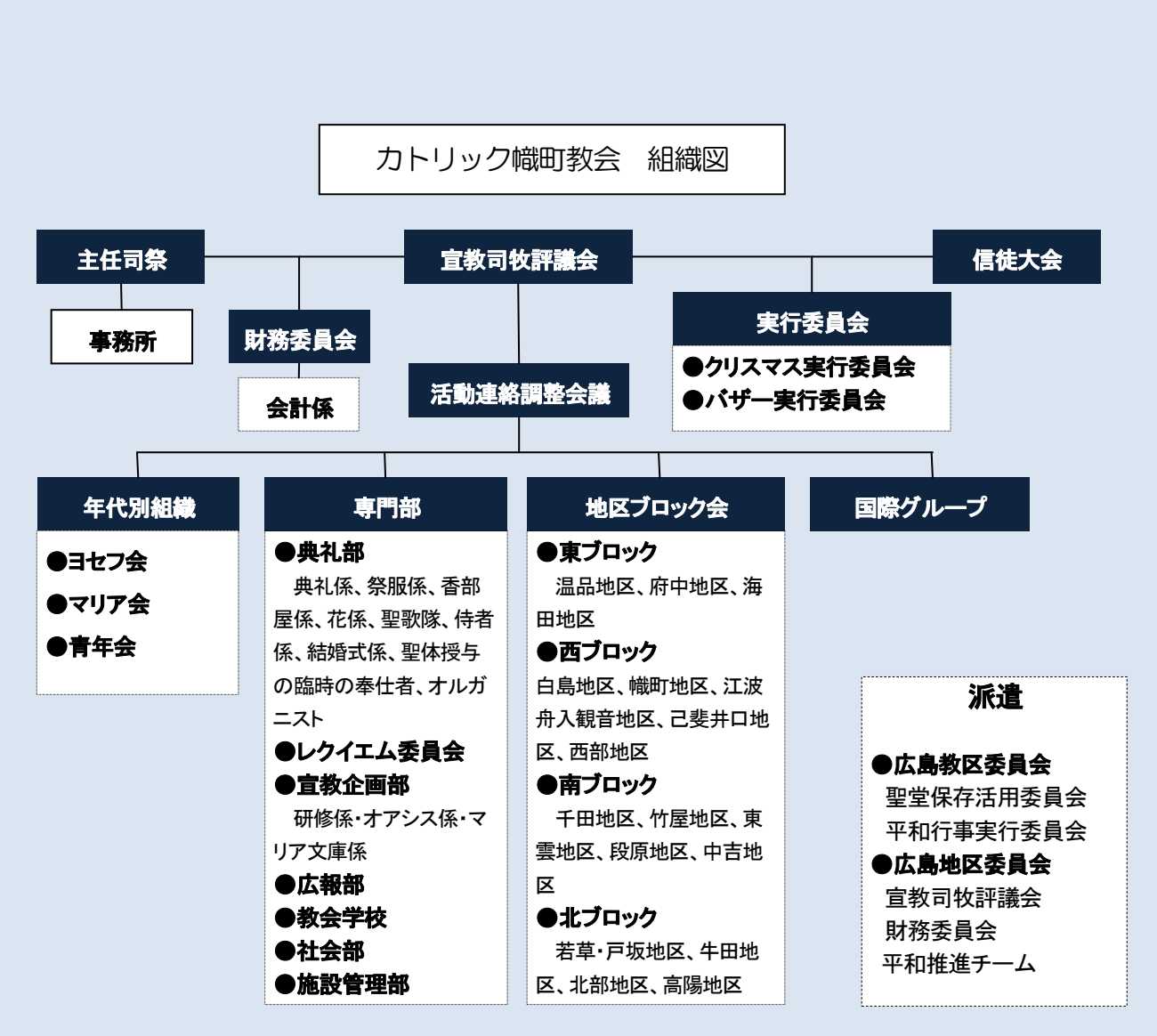
●財務部 → 財務委員会

【規程の変更】

●共同体の基本的な意思決定機関として宣教司牧評議会を置く（従前は信徒総会）

●信徒使徒職実践のために置かれている各組織の見直し

●各組織（活動グループ）の緊密な連絡調整のため、代表（原則 1 名）で構成する活動連絡調整会議を置く



Report 堅信おめでとう

宣教企画部 研修係

5 月 15 日、聖霊降臨の主日に、ミサ中で堅信式が行われ、成人が 11 名、中高生 6 名の方が堅信の恵みにあずかった。

ミサの後、祝賀会が行われ、ヴィタリ神父よりお祝いの言葉、堅信の皆さんの自己紹介、代父側としてＭさんの乾杯の音頭により、楽しく歓談した。ヴィタリ神父より堅信証明書と記念品が一人ひとりに手渡され、記念品は本で、成人には「キリストにならいて」、若者には「新約聖書」であること、それぞれ折にふれ読んで信仰を深めて欲しいとの言葉が添えられた。その裏表紙には本日の日付、堅信記念であること、それぞれ受け取る人の名前が、大きく書かれてあった。

終わりにあたり、堅信者の代父、Ｋさんの先導で、「ごらんよ空の鳥」を皆で歌い、ヴィタリ神父の「堅信は喜びだが、嬉しいばかりでないかもしれない。いろんな事があると思うが神に信頼して信仰を深めて欲しい」旨の挨拶があり閉会した。

洗礼を受け、堅信を受けた私達は皆、主の慈しみを広く伝える使命を持つ。嬉しいばかりではない、という言葉は、そこに向けられている。祝賀会で司祭は、信仰は自分に向かうだけではなく、分け与えてこそという事を言われていたが、主の慈しみの大聖年にこそ、必要とする人々に主の愛を届ける事を、しっかり考えて行動していきたいと思った。

「いつくしみの特別聖年」及び「家庭年」の取り組み発表

5 月 22 日開催の信徒大会において、2016 年度活動計画として、「いつくしみの特別聖年」及び「家庭年」の取り組みが発表された。個人で、家庭で実践できることは進んで実行しましょう。

「いつくしみの特別聖年」の取り組み

①聖なる扉の巡礼（山口・米子・岡山・津和野教会）及び、高山右近関連の巡礼

説明：聖なる扉の巡礼は教区行事に合わせて津和野、岡山は実施済み、他の扉については検討中。高山右近関連は列福式参加を検討中。

②何かを犠牲にして抑えられたお金を献金して寄付をする

説明；恵まれない人に心を寄せるため、例えば普段はビール 2 本のところ 1 本に抑え、控えたビール 1 本分の価額を献金する。献金は偶数月の第 2 日中です。

③マザーテレサ写真展・講演

写真展　9 月 17 日～10 月 2 日

片柳神父講演会　9 月 19 日

④どのような人たちも迎え入れる姿勢を持ち、多くの市民を機会を捉えて招致する。（特に夏休みにオアシスを活用）

説明：家庭的に恵まれない子供などを迎え入れることを検討する。

⑤外国人が教会に来やすいように環境を整える。

説明：主任神父と外国人有志で方策を検討する。

「家庭年」の取り組み

①週に 1 度は、食前食後の祈りと共に、家族で食事をする

②奥様の家事手伝いをする

③「ありがとう」と感謝の言葉を表す

①②③の説明：各自で、家庭で、クごとの集まりや地区会等で取り組み状況を分かち合い、取り組みの定着を図ってください。

④教会行事（復活祭・金銀婚お祝い会・バザー・クリスマス等）に家族を誘う

説明：別途配布の幟町教会行事予定に「家族デー」と書いてある日は、家族全員で（普段は部活等でなかなか教会に来られない子供たちや未信者の方もそろって）教会に行きましょう。教会は楽しいということを伝え、主日ミサに来るきっかけを作りましょう。

⑤家族フェスタの実施

説明：11 月 13 日（日）七五三お祝い日に実施。教会学校を中心に実行委員会を立ち上げる。

初聖体おめでとうございます

4 月 10 日に 4 人の小学生が初聖体を受けました。

編集後記

子供の減少が気になっている時に、初聖体という大きなお恵みをいただいた子供達がいます。教会のみなさんの祝福を受け、とても嬉しそうでした。このお恵みを忘れずにこれからもたくさん教会に来てほしいです。（さ）